

## 個性重視の教育

—フィンランド・西ドイツ  
カナダ—



澄んだ瞳で真剣に学習するフィンランドの中学生

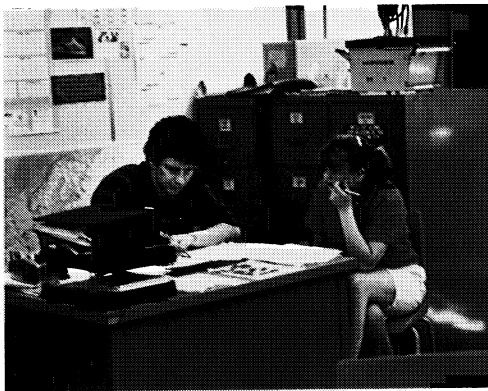
**フィンランド** では、従来から個性を大切に  
する教育が行われてきたが、現在では中学校  
以上において教育課程の多様化が図られ、選  
択教科等も生徒のニーズに合ったものが準備  
され、一人一人を生かす指導が行われている。  
例えば、生徒が希望する教科内容で、当該  
校にその教室等の施設設備がない場合は、隣  
接校にスクールバスで出向いて授業を実施す  
るなどは日本では考えられないことであった。  
金髪で色が白く、瞳の澄んだフィンランド  
の子どもは、神秘的で、妖精のような感じす

らしたが、学校訪問で話しかけてみると意外  
に内気で、はにかみ屋が多く、ポーツと顔を  
赤らめて答えてくる姿は、私たちの学校の生  
徒と相通するものがあるように思われた。

### 西ドイツ

では、生徒一人一人の能力、適  
性を重視し、それを最大限に伸ばそうと努め  
ており、学習内容をしっかり身につけさせる  
ために落第も小中高校を通して行っている。

基礎学校（小学校）四年を終了すると、将  
来大学進学を目ざす者はギムナジウム、中級  
的職業人を目ざす者は実科学校レアルシュー  
レ、手に職を持ち実社会に出る者はハウプト  
シューレのいずれかを選ばなければならない。  
最近では、国の経済成長とともにギムナジ  
ウムの希望者が増加し、重いカバンを背負つ  
た生徒が多く街角で見うけられた。一方、学  
校訪問では、ハウプトシューレの生徒たちの  
明るさ、人なつっこさが印象的であった。



自分のタイムテーブルに基づき先生の助言を  
受けながら学習を深めるカナダの中学生



明るく人なつっこい西ドイツ・ハウプトシューレの中学生

**カナダ** では、一人一人の生徒を大切にし、  
生徒の求める活動を十分行わせることが可能  
なように学校の施設設備、教員配置等まで配  
慮して、明るい楽しい雰囲気の中で充実した  
学習が展開されていた。学級の全生徒共通で  
なく、個々の生徒が自分のタイムテーブルに  
基づき、自らの学習として、個別あるいはグ  
ループで教師の助言指導を受けながら真剣に  
学習に立ち向かっていた。

昭和六十一年度文部省教員派遣  
教育事情視察団第四団

福島市立吾妻中学校長

棚木 和夫